



みなさまこんにちは、ひまわり共同保育所、今年も秋のフェスティバルを開催させていただきます。

地域のみなさまには、取り組みのたびにご協力・ご支援ありがとうございます。職員・保護者一同感謝しております。春のフェスティバルは天候の悪い中、たくさんの方に足を運んでいただきありがとうございました。今秋は春に引き続きフェスティバルはなじみのある、野添公園で開催させていただきます。なお、フェスティバルで得た収益は、保育園の運営・設備資金に活用したいと考えています。みなさま今年もどうかよろしくお願いたします

(2013年 実行委員長 坂本 心平)



## ひまわり共同保育所

# 秋のフェスティバル

日時

### 10月27日(日)

午前10:00~午後1:30



場所

### 野添公園



※ 雨天決行

雨天時は紫の里自治会館で行います。

物品の提供をお願いします!

- ※ ご家庭でご不用になった日用品・衣類 おもちゃを、ぜひご提供ください (食器類・下着類は新品に限ります)
- ・ 値付等の都合上 10月23日頃までに持参いただける大変助かります。

○ 日用品コーナー

○ 古着コーナー

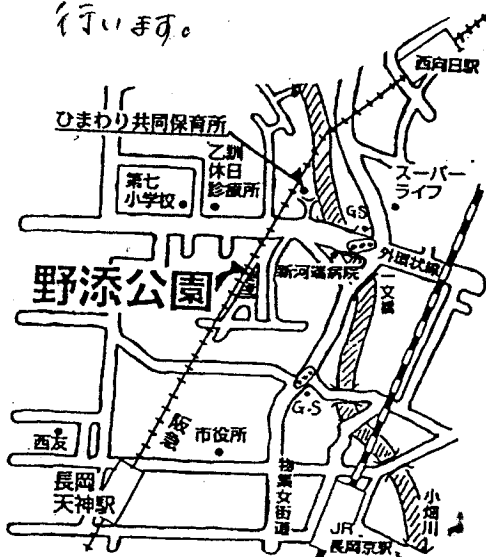
○ あそびコーナー

古本もあり

(おもちゃ販売  
あそびいろいろ!!)

○ 食べ物コーナー

(焼きそば... からあげ... など)



※ 大型家具・電化製品、使用された調理器具や食器はお預かりできません。

育児用品、子ども服 大歓迎です!



2013年夏涼 お泊り保育を終えて

ひまわりには、今2人の年長さんがいます。小さい時からひまわりで過ごしてこられたのは、去年おとしと。年長児がお泊り保育をするのを見させていただきました。だから、今年、自分たちがお泊り保育ができるのを4月から楽しみにし、色々計画を立て、準備を進めてきました。

そして、7月末、いよいよ、2来下のお泊り保育の日。年長さん2人と仲の良い年中児1人と一緒に泊り保育が始まりました。例年、西山キャンプ場へ行くのが崖崩れの危険性があるとのこと。今年も、西向日のアラスタリウムに行き、向日神社でお弁当。その後、プールへ行くと、買い物へ行くと、夕飯作りと順調に進んだと思えても、夕飯時、外は暗くなり、一緒にいた先生たちも一人二人と帰ってしまう。急に淋しくなり、一人が泣き出し、つらそうに一人が泣き出してしまい、一番、楽しみにしていたおひの肝試しを殆ど子頃には3人共号泣してしまいました。何かやらなければならない子とたちを何とかその気になせ肝試しに挑戦。しかし、困意にあふれ、おぼけに陥ってしまい、代わりにおぼけから「アセントはあした明日の朝、郵便受けのところに」との手紙もあり、翌日も試練が続きます。

翌朝、目覚め時計が早く起き出し、一目散に郵便受けのところに、探し場所を書いた手紙を手にして保育所へ出発。行く先々に置かれた手紙に従って、あちこちと歩き回り、ようやくアセントの手紙に入れた自分たちで朝ごはんを用意し、お迎えに来てくれたお母さんたちとお泊り保育の出来事と語りながら朝ごはんを食べ、無事にお泊り保育を終えました。

今度も「もう一回、お泊り保育をしてほしい」という子とたちの声も、嬉しくなりました。

2013.8月 さいごの担任 藤原実緒

ひまわり共同保育所 保護者会  
夏の南山城村ツアー



ひまわりの種

(泊2日の南山城村ツアーがお盆休みに企画されました。ひまわりOBの方が家族で南山城村に引っ越して1年半がたちます。8家庭、子どもが14人のにぎやかなメンバーで、トマト農家に車雲身されたステキな一家に会いに行ってきた。

「イクメン」という言葉が登場してからずいぶんたつ。調べてみたら、2008年頃から新聞に登場している。

息子が生まれて考えたことの一つが「自分はイクメンになれるのだろうか?」だった。人間は他者を通じて初めて自己を意識するとすれば、私は息子の存在によりイクメンとしての自己を意識したということになる。

道中は車が1台故障するほどのものすごい坂がずっと続きます。ざっとここ登りきるとこれでいいか!というほどの自然が待っていました。グリーバリーを摘み、トマト畑を言方問し、夏野菜カレー作り、花火を打ちあげ、川遊びをして、大人たちの目尻らない夜が更け...言葉もか「もう現実には戻りたくないよ」と言ってしまうほど幸せな2日間でした。

とはいえ、イクメンのモサシは存在しない。自己満足になってはならないし、目の前にいる息子の満足度だけで測られるものでもないだろう。こう考えると、イクメンとは何だろうか悩んだ。

いろいろ考えてみたが、たぶん答えはないような気がする。正解はないし、だからといって不正解もないだろう。こうした問題は、あれこれ考えても仕方がない。結局のところ、身体的な動きを息子にできるかぎりあおせつ、折に触れ家事もかたりやるというところに、私のイクメン論は落ち着きようである。

きっとまたひまわりのみんなと南山城村にあそびに行けますように



さくら文

